

ダニエルが見たユダヤ民族に降りかかる近未来預言

ダニエル書 8章前半

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆さん、こんばんは。いや、さっぷいですねえ。皆さん凍えて、だれも来ないかなと心配しましたが、このようにお集まり頂きまして感謝しています。

私は月に1回、セラトンホテル大阪で聖書の解説をしています。

ここでは『ざっくりダニエル書』。そこでは『ざっくり創世記』。明日やるんですが49章、ヤコブが12部族の預言をするところから話そうと考えています。

その会に親子2代目になる、そこそこ有名な企業の経営者が来られてて、親子2代にわたって天風塾（てんぷうじゅく）に通っていると言うんです。

中村天風（なかむら てんぷう/1876-1968）という方、ご存知ですか。

政界・財界人の中に熱狂的な信奉者がいるんですよ。

元陸軍のスパイ。日本に初めてヨガを持ち込んだ人。玄洋社（げんようしゃ）の頭山満（とおやま みつる/1855-1944）の片腕ですよ。右翼でもあったり、色んなことをした人です。

なぜそんなに信奉者が多いかというと、ニューエイジの先駆け、言うたら怒られるかなあ。自己啓発の日本人版。日本人にすごく訴えるような形で、自己啓発を語る。松下幸之助さんも稲盛さんも、この人の弟子なんです。

そして今、大リーガーの大谷翔平。彼がもうのめり込んでるんですね。

彼の気の利いた言葉って、「あ、天風名言録のやつや！」ピンと来るんですよ。

中村天風さんは80歳越えてから、『健康と長寿』という本を書きました。

もっと早くに書こうと思えば書けたけど、実際に年取ってからでないと、「おまえ、長寿まで行けるか分からへんやないか」となるんでね。

日本人男性の平均寿命がまだ70歳前半の時、80歳超えてものすごく元気。

その本に書いてあることは、「肉体の健康に気を配るのは大切だけど、もっと大切なのは、運の健康に心を配ることだ。」運とは幸運とか不運の運です。

事業をやっていると、特にアイデアを出したわけでもないのに、とんとん拍子に上手く行くこともあれば、一生懸命地道にやってんのに、やることなすこと全部裏目に出て、ダメになっていくこともある。

運は運ぶという字でしょ。成功者の中には、何かその人の才覚以上のものに運ばれて上昇して行く人。そして何か知らんけど、魔物のようなものに運ばれて引きずられて行く人。「良い運に恵まれるために、運の健康に気をつけるべきだ」というのが、その本の趣旨なんです。

彼はそれにいたく心を動かされ、私のところに来て、「運と聖書の神様は同じですか。」「違います。聖書では、運という考え方はしないですよ。」

「そうですね」って。聞くなや。それやったら。
彼は毎回来られるんですが、株をやってて。FXとかも。それで、国際情勢についても気を配らなければ、ということで調べている時に、私たちのYouTubeに出会ってメッセージを聞くようになり、月に1回通ってるんですね。

天風塾に無くて聖書にあるもの。日本のどんな自己啓発のセミナーにも無くて、聖書にだけあるもの。その一つは預言だと言っていました。聖書預言です。
聖書預言は、人類歴史の終わりに至るまで、人類はどんな道筋を辿って行くのかということなんですが、こんなことは神でないと言えないし、神でないと言えない。「そのようなものを神が私たちに読ませているのは、本当の神がおられることを知らせようとされてるんですね。私もう65%くらいクリスチャンです。」
クリスチャンって all or nothing。そんな65%なんて中途半端は無いんです。彼の独特な表現なんですけどね。

私自身も、聖書と本気で向かい合うようになったのは聖書預言のメッセージです。現世中心主義の私が、この現世が破壊されてしまう結末があるという聖書預言を聞いた日には、もうびっくり仰天でね。「良い話やったなあ」ではなくて、「余計なコト聞いちゃったぜ。これ知らなかったら現世に集中できたのに、もうできひんやないか。」そんなことが、私と聖書の出会いだったんです。

特にダニエル書は、終末預言の預言書の中でも、非常に詳しいメッセージを語っていて、8章9章10章と先に進めば進むほど、情報量が半端ないんですねえ。今日は8章と言ったんですが、全部はできません。8章前半で終えたいと思います。

全体をざっくり言うと、ダニエルが生きていたバビロン時代、バビロンが世界制覇をしている時代が終わり、メド・ペルシアが世界制覇をします。その次にギリシアが世界を制覇しますが、ギリシアの中から超極悪な一人のギリシア人の王が出て来て、ユダヤ人を散々な目に遭わせます。この王のことを詳しく預言しているのが8章です。

なぜ一人の極悪王を詳しくやるのか。彼がやったことこそが、艱難時代に反キリストがやることのひな型だからです。この極悪王はアンティオコス・エピファネス。この人物については次回やります。

色々資料を読み込んで、どれも物足りないと思っていたら、案外旧約聖書外伝のマカベア書が一番詳しくて。高価な本をずいぶん揃えたのに、ほとんど役に立たない。自分の本棚に眠っていたものの中に宝物があったというね。皆さんはあまり読む機会がないので、そんなものも引用しながら、次回ご紹介したいと思います。今日はバビロン、メド・ペルシア、ギリシアの預言のところまで考えます。

ダニエル書 8章

1ペルシャツアル王の治世の第三年、初めに私に幻が現れた後、私ダニエルにもう一つの幻が現れた。

ダニエルはいつこの幻を見たのか。ベルシャツアル王の治世の第三年。これは 7 章に出て来た幻の 2 年後です。ダニエルが 69 歳の時。BC551 年。バビロン帝国が滅びる 12 年前。ネブカドネツアル王時代に全盛期だったバビロンがどんどん衰退して行き、十数年後には一夜にして滅びてしまうというカウントダウンに入りつつある時。そんな時にダニエルは幻を見た。ここがポイントです。彼が見るのは幻なんです。ダニエルは、ベルシャツアル王がいるバビロンにいます。彼の肉体は、物理的にバビロンに存在していました。

2 私は幻の中で見た。見ていると、私はエラム州にあるスサの城にいた。なお幻を見ていると、私はウライ川のほとりにいた。

エラム州はペルシアの首都がある州です。ペルシアの首都はスサです。別の聖書ではシュシャン。彼がこれを語っている BC551 年では、ペルシアは超田舎の非常に小さな国でしかなく、とても世界帝国になるようには見えない国でした。ところが、ダニエルは幻の中で、今は小さなペルシアの都スサの城の中にいる。肉体はバビロンにいるんですよ。でも、幻の中ではペルシアの城の中にいるんです。聖書には、時々そういったことがありますよ。

なぜ城の中にいるのか。「今は、あなたが住んでいるバビロンが世界帝国の中心だが、それがここに代わる。」幻の中で、次の世界帝国の中心に飛んでるんですね。ウライ川はスサを流れていた運河です。

3 私が目を上げて見ると、なんと、一匹の雄羊が川岸に立っていた。それには二本の角があって、この二本の角は長かったが、一本はもう一本の角よりも長かった。その長いほうは、後に出て来たのであった。

これはメド・ペルシアのことです。メド・ペルシアの守護神は羊です。私、今日ちょっと洒落たネクタイ…、これは魚のマークです。初代教会のクリスチャンたちがローマのカタコンベに描いた落書きの魚をイクスースと言います。「イエス・キリストは神の子、救い主」という言葉の頭文字。魚が初代教会のクリスチャンたちのシンボルだったように、羊がペルシアのシンボルなんですね。

この羊には角が 2 本生えてますが、先に 1 本の長い角があって、後から生えて来た角は、先の角よりもっと長くなった。これはメド・ペルシアのことです。

19 こう言った。「見よ。私は、終わりの憤りの時に起こることをあなたに知らせる。それは、終わりの定めの際に関することだ。

20 あなたが見た二本の角を持つ雄羊は、メディアとペルシアの王である。」

「これは動物になぞらえて、メディアとペルシアの王のことを説明してるんです」と、ちゃんと解説が付いてる。

聖書預言は、その預言が実現する前にこういう説明があるのでなんとなく分かるけど、その預言の正しさは、実際は成就した後で最も正確に理解できるんです。成就する前も預言として言葉で書いてあるけど、成就した後で、微に入り細に入りピッタリの表現で預言していたということが分かる。私たちはメド・ペルシア時代のはるか後に生きています。だから、ダニエルがここで預言している内容がいかにか正確かが分かるんですね。

21 毛深い雄やぎはギリシアの王であり、その額にある大きな角はその第一の王である。

雄やぎが雄羊を打ち倒す。ギリシアがメド・ペルシアを打ち倒します。星座の山羊座はギリシアのことですよ。予備知識があれば「山羊か！ギリシアだ！」となるけど、バックグラウンドがない文化の中で育ったので、解説がないと中々分からないんですね。要するに、バビロンはメド・ペルシアに滅ぼされ、メド・ペルシアはギリシアに滅ぼされ、ギリシアの中でも第一の王が特にすごかったと言っているんです。

3 私が目を上げて見ると、なんと、一匹の雄羊が川岸に立っていた。それには二本の角があって、この二本の角は長かったが、一本はもう一本の角よりも長かった。その長いほうは、後に出て来たのであった。

一匹の雄羊／メド・ペルシアはメディアとペルシアの連合国・合体した国だが、後から出て来たペルシアの方が凄い。実際そうだったと聞いてもピンと来ないので、今日はペルシアの歴史をお話しします。

BC8世紀、非常に強大な国がオリエント世界を統一しました。アッシリアです。アッシリアはバビロンに滅ぼされ、4つの国に分裂しました。

①バビロン ②メディア ③リディア ④エジプトです。

この4か国を再統一するのがペルシアですが、ペルシアはメディアの一部、極々小さな属国にすぎなかったんですね。そこで、ペルシアの成り立ちを説明するために、メディアの最後の王を紹介します。

メディアの最後の王はアステュアゲス。彼にはマンダネという娘がいます。ある夜、彼はうなされるような夢を見ました。マンダネの尿が止まらなくなって、その尿が洪水になり、オリエント世界が全部押し流されてしまうんです。流されて何も残ってない国の中に、自分の国メディアも入っている。「バカな夢見たな。あつはつは」とは思わなかったんですね。非常に胸騒ぎがする。

そこで、ブレーンに聞きました。ブレーンはマゴスと呼ばれる人たちです。マゴスからマジシャンという言葉が生まれました。魔術師ではなく、占星術・経済・世界情勢・薬草の知識で医学とか、何でも答えることができるブレーンです。

マゴスにこの夢の話をする、「それは、あなたの娘さんから出る者がオリент世界を支配して、何もかも自分のコントロール下に置くということです。このメディア王国も例外ではありません。傍に置かない方がいいでしょう。」

そこで娘のマンガネを、自分の支配下にある非常に小さくて、最も貧乏で、大したことがないと思われた、**ペルシア**の王子**カンビュセス**に嫁入りさせました。当時、メディアの中流階級の生活の方が、ペルシアの王族の生活よりも豊かだと言われたんですよ。どれほど貧しいか分かるでしょ。大した国じゃないんですよ。他国の王子に嫁入りといっても、実質的には島流しみたいな結婚。遠ざけるために。

それから1年経ちました。また夢見るんですね。今度の夢もマンガネの夢。今度は、マンガネの体からぶどうの蔓が出て来るんですよ。どんな夢やと。マンガネの体からウヤウヤとぶどうの蔓が出て来て、あっという間にアジアをぐるぐる巻きにしてしまうんです。オリент世界が紐でがんじがらめにくくられたかのように、マンガネによって身動きできないように縛り付けられてしまう。

マゴスに相談しました。「王よ。同じような夢を2度見るということは、これは正夢でございます。マンガネ様から出る者がオリент世界を支配するようになり、我々の国も例外ではないという神のお告げだと思います。」

不安になって嫁ぎ先のペルシアに問い合わせると、なんとマンガネは妊娠してた。マンガネから出る者とは、マンガネが産む男の子でしょう。そこで、アステュアゲスはマンガネに命令するんですね。「出産はペルシアではなく、メディアに戻って来てやれ！わしの目が届くところでやれ！」彼女は王の命令なので逆らえず、メディアに戻って出産しますが、産まれるや否や、アステュアゲスは娘から赤ちゃんを奪い取った。

この赤ちゃんを生かしておく、将来大変な災いが及ぶことになる。アステュアゲス王が最も信頼していた部下は**ハルパゴス**でした。彼は親戚で一族なので、まず裏切ることはない。運命共同体だから。それで、絶対に裏切らない側近中の側近ハルパゴスに言います。「マンガネが産んだ子**キュロス**を殺せ。」

ハルパゴスは「は！」と頭を下げましたが気が進まない。親戚だから、キュロスとは血が繋がってるんですよ。それに、マンガネがそれを知った時にどう思うだろう。色んなことを考えて直接殺す気になれず、山奥に行って獣に襲わせようとしています。

山奥深く行くと、アステュアゲスの部下で、牛飼いの男がいました。彼に、「獣が行き交う場所にこの赤ちゃんを置き去りにして、獣に食わせてしまえ。この子が死んだのを見届けたら、わしに報告せよ。おまえが責任もって殺すんだぞ。獣が何もしなかったら、おまえが殺せ」と言って帰りました。金の刺繍のおくるみにくるまれた赤ちゃん。牛飼いの男は「こんな可愛い赤ちゃんを殺す…。命令には逆らえない…。」

浮かぬ顔で家に戻ると、奥さんが「絶対に殺したらいけない！」

彼女は妊娠中でしたが死産だったんですね。「私たちの赤ちゃんに金のおくるみを着せましょう。そして、マンガネ様の赤ちゃんを、私たちの子として育てましょう。」赤ちゃんの遺体を見せたら、だれも疑わない。すり替えたんですね。自分たちの死んだ赤ちゃんにおくるみを着せて埋葬しました。やがて、ハルパゴスの使者が赤ちゃんの遺体を見届けに来て、確かに間違いないということで一件落着。良かった。

それから10年経ちました。牛飼いの男に育てられているキュロス少年は、非常にリーダーシップを発揮する子供なんです。『梅檀は双葉より芳し（せんだんはふたばよりかんばし）』。大成する人は少年時代から何かちょうみみたいな。近所の子供たちと色んなことして遊ぶんですが、王様ごっこの時、たまたまキュロス君が王様になったんです。するとテキパキと、「君は軍楽隊の隊長」「君は宮殿を建てる建築係」「君は一番兵士」って、人事采配を振るうんですよ。「これから我々の王国を造って行くぞ！エイエイオー！」

その中にメディア貴族ナンバーワンの子供がいて、「いくらごっこ遊びでも、牛飼いの子供の命令を、なんで俺が聞かなあかんねん。おまえは牛飼いの倅やないか。俺は本物の貴族やぞ。おまえの命令なんか無視じゃ！」と言った瞬間、キュロス少年が「彼を捕えよ！」部下になっている子供たちがガツと羽交い締めにして、貴族の子をムチでシバキ倒した。

彼は傷だらけになって家に帰り、「お父さん、酷い目に遭った。牛飼いの子にやられた。」「けしからん！しかし、あの牛飼いはアステュアゲス王の奴隷だから、王のものに直接手を出すことはできない。王に直訴しよう。」貴族はアステュアゲス王に訴え、王は牛飼いとキュロス少年を呼び出しました。牛飼いは米つきバツタのように、「すみません。すみません。すみません。」父親は謝り倒すけど、少年は堂々として、「王様。ごっことはいえ、王の命令は重んじられるべきだと考えています。ですから、私を処罰するのが王の命令ならば、私は喜んでそれを受けます。」

この親子、全く似てない。よく見ると自分に似ている。孫ですからね。どうもおかしい。10歳…10年逆算したら、アレが思い当たった。牛飼いに「この子は本当におまえの子か。」「はい。私の子でございます。」「では、別室で聞く」と言って、拷問部屋に連れて行くんです。メディアの拷問って、歴史に記録が残っているくらい残酷。「ギャーッ！」本当のことを洗いざらい全部喋るんですね。

アステュアゲスはハルパゴスを呼び出しました。「あの子を殺せと命じたよな。」「はい。殺した…はずです。」彼も牛飼いに騙されたんですよ。死体の赤ちゃんは当然キュロス君だと思っているわけ。「知りませんでした！」「実は赤ちゃんを取り上げてからマンガネと不和になり、親子関係が良くない。

あの子が活着ていると分かったら、娘もわしを赦すだろう。わしもあの子が居るのは良いことだと考えが変わった。今日は気分がいいから、メディアの神にいけにえを献げて、その後大宴会を開きたい。おまえにも来てほしい。それから、おまえには10歳くらいの子が居るが、キュロスの友達になってやってほしい。先にキュロスに会わせたいから、子供だけ送ってくれ。おまえは宴会の時に来たら良い。」

ハルパゴスの息子が宮殿に着くとすぐに捕らえ、八つ裂きにして肉を削ぎ落とし、茹でたりあぶったり焼いたり。

やがて大宴会の時間になり、ハルパゴスがやって来ました。

ほかの人のお皿にあるのは羊の肉ですが、自分のお皿のは全く見たことのないような肉料理で、絶品だったそうです。「おまえのために特別に作った料理だから、もっと食べよ。」彼は平らげてしまいました。「王よ、あまりにも美味しいのですが、いったい何の肉ですか。」「では、残りを持って来い。」

皿に載せられて来たのは息子の生首。自分の息子を食べさせられたんですね。

アステュアゲス王が聞きました。「どうだった?」

ハルパゴスはひと言で答えました。「王がなさるすべてのことについて、私は満足しております。」歴史書に、顔色一つ変えずに言ったと書いてあります。

つまり、アステュアゲスってそういう人なんですよ。

彼はマゴスに聞きました。「10歳のキュロスをどうしたものか。この場で殺してしまうか。」マゴスは答えました。

「確かに私どもは、マンダネ様から出る男の子が王になると言いましたが、それは王様ごっこという形で成就しました。実は夢の中のお告げは、小さな実現によって終わることがよくあります。王様ごっこで、あの夢は既に実現したとみなすことができるので、殺すには及ばないでしょう。しかし、万が一のことを考えて、メディアに留めるのはやめ、ペルシアに帰した方がいいと思います。」「分かった。」

付き人が付いて、キュロス少年はメディアから田舎のペルシアにずっと旅を続けました。メディアはイラン高原の北の方。ペルシアはイラン高原の南の方。

道中、彼は付き人に、「これから、新しいお父さんのところに行くんだ。」

付き人は「新しいお父さんじゃないですよ。あなたの本当のお父さんです。」

そして、今までのことを全部、10歳の少年に言ったんです。

キュロスは衝撃を受けたと思いますよ。

やがてキュロスが大人になると、元々リーダーシップがあり、才覚があるというか英才教育を受けて、「ペルシアは非常にまとまっている。いい国になっている。良い後継者がいる」と評判になりました。

それがハルパゴスの耳に入った時、彼はキュロスに連絡を取って言います。

「キュロス様。メディアの人々は、暴君アステュアゲスの横暴にうんざりしています。メディアの貴族全員に話をつけていますから、ペルシア軍が反乱を起こしてくれませんか。そうすれば、反乱ペルシア軍を鎮圧するというところで、メディア軍をすぐ動員することができます。今、何も無いところで軍を出すとクーデターを疑わ

れますが、あなた方が反乱を起こしてくれたら、私たちはすぐに軍を動員して、王を取り囲むことができます。そうしてください。」

キュロスはやるんですが、戦力は10倍以上。
小さな国の軍隊が、どうやって強大な国に勝つことができるのか。
ウクライナがロシアに戦争仕掛けて、勝つようなものですよ。

戦意高揚のために、キュロスは戦闘に参加できる年齢の男性を全員、イラン高原の南の平原に集めました。その時一人一丁ずつ鎌を持って来させて、朝から晩までイラン高原の草刈り。平原にせよと。腰は痛いし、皆クタクタで解散。
2日目は「風呂に入って、さっぱりして来い。」皆さっぱりして夕方集まった時、キュロスは自分のお父さんが持っていたすべての牛・羊・山羊を屠って大宴会。皆が満腹になった後で演説します。「1日目と2日目、どっちがいいか。」
そら2日目や。「このままメディアの支配下なら、ずっと1日目が続く。しかし、ここで立ち上がったら2日目が続く。我に続け！」
メディアに向かって進み、国境を突破してメディアに到着した頃には、既にメディア軍が王を取り囲んでいたため、兵を損失せずに王を生け捕りにできたんです。

キュロスはアステュアゲスを殺しませんでした
大国の国民が、小さな国の王である自分をすぐに受け入れるとは思わなかったんですね。反発を買わないために生かしておいたんです。
同時に、「私の父の血筋はペルシアの王家だが、母はメディアの血筋だ。私はメディア王国とペルシア王国の要になることができる」ということで、メド・ペルシアが成立するんです。しかし、彼のアイデンティティとしてはメディアが嫌い。
なので、小さなペルシアに徐々に権力を移して、そうなったということですね。

3 それには二本の角があって、この二本の角は長かったが、一本はもう一本の角よりも長かった。その長いほうは、後に出て来たのであった。

二本の角があって。なぜ羊（メド・ペルシア）に2本の角があるのか。
単体ではなく、連合軍としてスタートするからです。
一本はもう一本の角よりも長かった。その長いほうは、後に出て来たのであった。
最初に強かったメディアは、ペルシアに呑み込まれてペルシアになる。

アステュアゲスを生け捕りにして王位から引きずり降ろしたのが、このダニエル書8章の幻を見た翌年のBC550年。
これは全部実現した後に見たので、ピッタリの表現だったと分かるんですね。

4 私はその雄羊が、西や、北や、南の方を角で突いているのを見た。どんな獣もそれに立ち向かうことができず、また、それらから救い出す者もいなかった。雄羊は思いのままにふるまって、高ぶっていた。

ペルシアのすぐ西がバビロン。バビロンを滅ぼしたのはペルシアのキュロスです。

ペルシアの北はカスピ海。その周辺の国々を滅ぼす中で、キュロス王は戦死します。しかし、跡を継いだ者たちが北へ北へと広がって行きました。

南の方はペルシア湾に至るまでの全領域。

こうして、ペルシアはインドから南のエジプトに至るまで、広大な地域を治めるようになって行きましたが、ここに大きなトラブルの原因があったんです。

西の方に地中海があり、地中海をもっと西に行くとエーゲ海があり、そして、ギリシアの国々がありますね。

ハルパゴスはキュロスの命令で、西に西に支配権を広げていきました。

支配された中にミレトスという町があり、ペルシアの植民都市なので、ギリシア人がたくさんいます。「なぜペルシアみたいなアジアの連中に、支配されなきゃいけないんだ！」ということで、ギリシア人が反乱を起こしました。

その時の軍備・武器弾薬は、アテネから送られて来たことが分かったんです。

ペルシアは激怒して、「ペルシア帝国に歯向かうものをバックアップするとは何だ！」ということで、アテネに懲罰を加えた。

これがギリシア・ペルシア戦争の始まりですよ。

この戦争は段々規模が大きくなっていきます。BC492年から13年間、大きい戦争が3回ほどありますが、その中でスパルタ軍が全滅。

スパルタいうたら、メチャクチャ強かったんですよ。陸軍。

それでギリシア人の中に「ペルシアの奴らめ！」という憎しみがフツフツとあったんですが、ギリシア人って、まとまることができなかったんですね。

1つの大きな帝国を造るのではなく、各町ごとにアテネはアテネ、スパルタはスパルタという独立した都市国家をポリスと言いますが、いつも仲たがいで戦争している。戦争が止むのはオリンピックだけ。オリンピックシーズンの4か月半くらいだけ戦争しない。クーベルタンが「オリンピックは世界平和！」とか言うてるけど、元はギリシアの休戦期間の戦い。これに優勝しても、何ももらえません。

莫大な賞金も何もない。だけど、優勝者は彫像を造ってもらい、神殿に飾ってもらえる。ほんまにギリシア人って、物とかが好き。

そして、ギリシア人は自分たちの文化に非常に誇りを持っていました。

一番誇っていたのはギリシア語。美しいギリシア語を語れる人が最も美しいギリシア人。だけど、ギリシアから遠ざかって行くと方言になってくる。

僕はもう標準語でやってませんよ。分かってます、そんなことは。

僕は二十数年間ラジオ放送やってます。日曜日の朝7時45分『聖書と福音』。

知ってました？聞いてくださいね。第1回目の放送は標準語でやったんです。

そしたら視聴者から手紙が来て、「標準語で喋れ。」むちゃくちゃ傷ついたもんね。

「公共の電波だぞ。そんな訛った話し方するな！」

それでキレて、「それやったら、とことん大阪弁でやったるわ！」みたいな。

ギリシア人たちは訛ったギリシア語を軽蔑し、外国語は「バロバロベロベロ」とし

か聞こえなかったんでしょう。ここから「バルバロイ／野蛮人」という言葉ができたんです。ギリシア語が一番上と考えているんですね。
オリンピックの時だけは休戦しているが、それ以外はいつも競い合っている。
「俺たちの方が純粋なギリシア人だ」と言って、団結できない。

さて、ギリシアの北にマケドニア地方があります。
マケドニアの人々も当然ギリシア語を話しますが、訛ってるんですよ。
なので、レベルが低いギリシア人と見下されていました。

新約聖書の**ピリピ人への手紙**、**ピリピ**はフィリップ／フィリッポスです。
マケドニアのフィリッポス王がマケドニア地方を全部まとめて、各個撃破でポリス
を一つひとつ潰して行くんですね。バラバラのギリシアを、マケドニアの力で1つ
のまとまった国にすることができたんです。

ところが、「これまでペルシア人を散々苦しめて来たギリシアを討伐してやる！」
と思った矢先、暗殺されてしまった。跡を継いだのが、息子の**アレクサンドロス**。
20歳。「はたちの兄ちゃんが、荒くれマケドニアをまとめられるわけがない」と思
われたけど、まとめたんですよ。アレクサンドロスって、むちゃくちゃカッコイイ。
僕は少年時代、なんぼこの人の話を読んだか分かりません。
だけど今思うと、作り話ちゃうか？出来過ぎとる話やないか？

フィリッポス王は息子のために家庭教師を雇いました。アリストテレスですよ。
アリストテレスはミモザという学園を造りました。アレクサンドロスと十数人の学
友たちがそこで帝王学を学んで。だから、仲間なんです。クラスメート。
そうして、はたちになった時、忠誠を誓っているアレクサンドロスの下にバチッと
まとまって、だれにも文句を言わせない。

22歳になると（今の大学4年生ですよ）、「いよいよ父の念願、ギリシア人の執念、
あのペルシアをやっつけるぞ！」一応「將軍」とか言うてるけど、みんな20歳そ
こそこの若者集団。出陣式で出発する時、アレクサンドロスは自分の財産を片っ端
から分けていくんです。とうとう、アレクサンドロスの不動産はゼロになった。
心配した部下が「王よ、あなたには何も無いじゃないですか」と言った時、「私に
は希望がある。」これは出来過ぎ。作ったんちゃうか、この話…みたいな。

彼は4万の兵士と食糧備蓄30日間だけで出て行きます。
食糧備蓄30日で、なぜ戦争しようと思ったのか。「私が負けるはずがない。」
勝ったら、相手の食糧を全部自分のものにできるやないか。破竹の勢いでした。

最初の戦いは、ギリシア軍もペルシア軍も4万。ペルシアが一蹴された。
2回目の戦争は、ギリシア軍4万対ペルシア軍60万。10倍以上ですよ。
ペルシアの王はこれだけいたら負けなれないと思い、戦場に大きなテントを張って風呂
を作り、母親・妻（妃）・娘（王女）をみな連れて、ペルシア軍が勝つのを見てい
ました。

ところが、アレクサンドロスが天才的な戦術で、あっという間に後ろから来て、パニックになったペルシアの王は逃げるんです。母親・妻・娘を置き去りにして。

ロイヤルファミリー全員がアレクサンドロスの手中に入った。彼女たちは絶世の美人だったそうです。歴史では絶世の美人って皆言うんですけど、ペルシア人／アールリア民族だから多分そうだと思いますよ。アレクサンドロスは彼女たちに何でも出来るけど、指1本触れなかったそうです。王妃・王女としての最高の礼儀で、最高の扱いで迎えました。ペルシアを支配した時、ペルシア人の反感を食らったら支配できないからです。この人物は尊敬に値する、ということを見せておかないと。これが22・23歳で、なんで分かるん。アリストテレスですよ。ペルシア王は「もし私が捕虜になるなら、アレクサンドロスの捕虜になりたい」と言ったと。これは後で付けた話やと思います。

最後はアルベラの戦い。ギリシア軍4万対ペルシア軍100万。圧倒的多数を相手にするので奇襲しかない。「夜中に闇討ち掛けましょう」と友人でもある将軍が言った時、「私は戦いを盗まない。真正面からやる。」

ペルシアの方ではそんなことするワケがないと思ってるので、徹夜で緊張して。でも、全然攻めて来ない。やがてほとんど疲れた時に、ワーツと攻めて来られた。100万人いうてもペルシア人はごく一部で、ほとんどは色んな支配地から傭兵で雇った人たち。忠誠心ないんです。あっという間に軍がバラバラになって、王は逃げ出し、最終的に逃亡地で殺されます。AD330年。あの大帝ペルシアが、たった数年でアレクサンドロスによって滅ぼされた。

5 私が注意して見ていると、見よ、一匹の雄羊が地には触れずに全土を飛び回って、西からやって来た。その雄羊には、際立った一本の角が額にあった。

地には触れずに全土を飛び回って、どないして歩くねんと取ったらダメなんですよ。飛ぶようなスピードで、あっという間に支配した。スピードを強調した詩的表現。

6 この雄やぎは、川岸に立っているのを私が見た、あの二本の角を持つ雄羊に向かって、激しい勢いで突進した。

7 見ていると、この雄やぎは雄羊に近づき、怒り狂って雄羊を打ち倒して、その二本の角をへし折ったが、雄羊にはこれに立ち向かう力がなかった。雄やぎは雄羊を地に投げ倒して踏みつけた。雄羊をこの雄やぎから救い出す者はいなかった。

雄やぎは雄羊にムチャクチャ怒っている。自分が王になる前、ペルシアはギリシアに散々なことをやらかしてくれたからです。リベンジ。復讐戦。

結局この4万人は、最後インドまで行くんです。インダス川越えて。

インドが終わったら中国まで行こうと思ってたんですが、インドまで来た時、兵士たちがストライキを起こすんですね。国を出てから1回も帰ってない。

我慢に我慢を重ねて、兵隊がストライキを起こしたので、ここまでということ終

わかりました。兵隊が日本人みたいな国民性なら、アレクサンドロスは極東まで来てたかもしれません。恐ろしいですねえ。

10年経った時、アレクサンドロスは熱病・風土病に罹って突然死するんです。突然死するまで非常に元気でした。そんな人が急に病気になったということで、毒殺説や色んな説が出ましたが、普通の本、いわゆる正統派の本によると、体を冷やす物をいくら飲んでも熱が上がって、亡くなったということです。

ところで、ある時から、アレクサンドロスの性格が豹変するんですね。

8a この雄やぎは非常に高ぶったが、強くなったときにその大きな角が折れた。

これはアレクサンドロスのことです。

強くなったときにその大きな角が折れた。全盛期にポキッと折れた。

普通は段々弱って行って、歯が抜け、毛が抜け、よぼよぼになって角が折れ。

そうじゃなくて、最も勢いあって、まだまだ膨張するぞという時に突然ポキンと。

内面的には高ぶった時。しかも、非常に高ぶった。

アレクサンドロスは元々自信家ですが、まだ分をわきまえていました。

彼と部下たちは、上下関係というより仲間なんですよ。アレクサンドロスは大王ですが、貴族の中の第一貴族が王様。だから、横の関係が強いんです。

因みに、アレクサンドロスはアラビア語でイスカンダル。

松本零時（まつもと れいじ）の『宇宙戦艦ヤマト』。知らんかな？

アレクサンドロスがエジプト遠征で神殿の町シーワに入った時、エジプト人は彼に逆らいませんでした。強いから。

彼はシーワの神殿に入った時に信託を受けます。「あなたは神の生まれ変わりです。あなたは人間じゃない。あなたは神です。」

それでエジプト人から、王にではなく、神に接するような接し方を受けました。

これは非常に気持ち良かった。「俺は神なんだ！」それ以降、アレクサンドロスが発行するコインには、彼の頭から角が出る。角は神々しさの特徴です。

そして、仲間同士で距離感がなかった部下に、マケドニア人やギリシア人にも、

「俺を神として扱え！気軽に話しかけるな。身を清めて、ひざまずいて話せ。」

強制するようになったんです。自分を神だと思い始めて。

人間の分際をわきまえず、自らを神とすることを傲慢と言います。

彼は熱病に罹って、何かに打たれたように突然死にました。

8b そしてその代わりに、天の四方に向かって、際立った四本の角が生え出て来た。

彼の死後、4人の部下がそれぞれ4つの国を造ります。これは次回説明します。

さて、今までのところから3つ考えたいと思います。

1. アレクサンドロス王は、実に短期間で、当時知られているほとんどの世界に行

くことができた。それを許されたのは創造主である神。なぜそれを許されたのか。アレクサンドロスはギリシア人なので、ギリシア文明を世界中に広げ、現地の文明と融合していくことに非常に力を注ぎました。これをヘレニズム文明と言います。

アレクサンドロスはギリシア文明の発信基地として、あちこちにアレクサンドロスという町を作りました。エジプトのアレクサンドロスは有名ですが、それ以外に70くらいあるんですよ。その結果、ギリシアの文化・技術・芸術・哲学が世界中を席卷し、ギリシア語が世界共通語として定着します。それは外国人でも簡単に使いこなせるような、文法を簡略化したギリシア語で、コイナー・グreek/共通ギリシア語といいます。

実は、新約聖書はコイナー・グreekで書かれてるんですよ。イエスの時代も、ギリシア語が世界共通語でした。今の英語です。アレクサンドロスがギリシア文明を広めたことによって、後に新約聖書の時代になった時、聖書の福音が短期間で爆発的に広がる段取りが取れたんですね。彼は神に貢献しようと思ってやったんじゃないけど、結果として神の良い計画のために使われた駒にすぎない。一番偉大なのは神です。

2. この世界の真の主権者は、アステアゲスでもなく、キュロスでもなく、アレクサンドロスでもなく、主である神。

イザヤ書 44 章

6 イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう言われる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はいない。」

7 わたしが永遠の民を起こしたときから、だれが、わたしのように宣言して、これを告げることができたか。これをわたしの前で並べ立ててみよ。彼らに未来のこと、来たるべきことを告げさせてみよ。」

彼らに未来のこと、来たるべきことを告げさせてみよ。
聖書の神は、未来のこと、来たるべきことを前もって告げ知らせる神。預言の神。彼らは偶像のことです。色んな偶像がありますが、偶像に聞いても喋れない。目があっても見えず、口があっても話せない。それが偶像。

人間は拝んでいるものに似るんですよ。目があっても見えず、耳があっても聞こえず、口があっても話せないものを神として拝んでいる人は、霊的なことに反応できなくなる。人が礼拝して良いのは、人を創られた神だけです。聖書の神こそが真の神である大きな大きな根拠は、未来のこと、来たるべきことを聖書が語っていることです。こんな書物はほかにない。もちろん予言の本はあるけど、外れるからね！これは当たっている。でも、ほかは外れてる。1個でも外れたらアウト！全部成就するのは聖書だけです。

3. 神のことばが書かれたのは救いのためです。

ダニエル書 8 章

8a この雄やぎは非常に高ぶったが、強くなったときにその大きな角が折れた。

強くなったから高ぶった。強くなって高ぶった時に倒された。

聖書は私たちが怖がらせるための本ではなく、神の前にどうしたら祝福されるかを教える救いの本でもあるんです。

高ぶりの反対は謙遜。「へりくだりなさい」と。人が破滅するのを「おまえら破滅するぞ！」と脅すのではなく、「そこから身を引いて、神の前にへりくだろう」と呼び掛けるんですね。

インドの小学生たちがバスに乗って遠足に行きました。トンネルに入るんですが、トンネルの高さは5m。バスの高さも5m。日本人のドライバーなら入らへん。だけどインド人。入って行ったら、途中でギュッと挟まって、前にも出れない。バックもできない。ほかの車に紐で引っ張ってもらっても、ビクともしない。なぜ入ったのか。去年は通れたって。ところが、この遠足の直前にアスファルトの塗り直しをやったので、地面が2cmほど上がってたんです。大人がヒーヒー言ってる時、乗っていた小学1年生の子供が「タイヤの空気、抜いたらいいんちゃうん。」空気圧下げたら、ヒュッと下がって、シュッと行った。その本にこう書いてありました。「低くなるのが解決です。」

「オレがやってやるんや！」どんな力持ちでも、自分で自分を持ち上げることはできないでしょ。ベンチプレスで300キロ挙げられる人でも、自分の体を上げることはできない。自分で絶対できないことをやろうとするのは、ガッツがあるのではなく愚かなんです。

自分で自分の罪を消すことはできない。自分で自分の永遠の運命を変えることはできない。自分を天国まで引っ張り上げることはできない。人ができないことを代わりにしてくださるために、救い主イエス・キリストが来てくださいました。このキリストの前にへりくだり、この方を救い主として受け入れる時、私たちは永遠のいのちを頂くことができます。ぜひイエス・キリストを信じてください。そして、聖書預言の正しさに触れて、ますます、この方に従う人であっていただきたいと思います。

☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017